

---

**そんな出会いで恋をしたかった。**

たこぴー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そんな出会いで恋をしたかった。

### 【Nコード】

N9215Y

### 【作者名】

たこぴー

### 【あらすじ】

僕は恋をしないと決めた…、そのはずだった。でもあの日から僕は恋をしたのかもしれない。

## プロローグ（前書き）

こんにちは、最近もう一つの小説が上げるのが遅れているので、もと書いていた小説をあげてみます。

## プロローグ

8年前：

二人の子供が話し合っている、そのうちの一人は僕だった。

「ねえ、約束だよ。ずっと一緒にいてね。」

今となってはあだ名しか思い出せない少女は言った。

「うん！ずっと一緒にいようね！」

まだ幼い僕は笑顔で返事をした。

「約束だよ。」

少女はピンと小指をたてた手を僕に向けた。

「うん。」

僕は自分の手を出してその小指を少女の小指に絡めた。

「指切りげんまん、嘘ついたら針千本のーまず指切った！」

「これですつと一緒にだよ望！」

「そうだね、このちゃん！」

けどこの約束は儚く消えた。

その日の夕方はいつも以上に騒がしかった。

けたましいサイレンの音、野次馬の声が僕の周りで聞こえた。

「女の子が轢かれたらしいわよ。」

「あら本当に、まったく、かわいそうとしか言いようがないわね。」

「ねえ、あそこにいる子轢かれた子の知り合いかしら？」

周りで僕の事を言っている人もいた、なかには心配して話しかけてきた人もいた、けどそのときの僕は何の反応も示さなかった。

なぜなら、

「うつ…、ひつく…。ああああん！」

泣いていたから。

そのとき自分の一番大切な人がいなくなってしまう僕の心の中にはとても大きな喪失感ができた。そしてその喪失感はこのちゃん以外の女の子と恋をしないという決意で埋めた。

一ヶ月後このちゃんの家族は引越した。

ジリリリリ！とうるさく目覚まし時計が鳴り響いた。

「朝から嫌な事を思い出したな。」

僕は呟きながらベッドから出て、支度をして入学式に向かった。

## プロローグ（後書き）

こんにちは、元から書いていたやつを上げました。

応援していただけると嬉しいです。

できたらもう一つの作品、W S P 二人の能力者もよろしく願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9215y/>

---

そんな出会いで恋をしたかった。

2011年11月27日16時47分発行